

## フリートークで出たご意見・アンケートに自由記述いただいたご意見やアイデア

他施設の「おにクル(大阪府茨木市)」や「分じろう・十じろう(新潟市十日町)」など、建設時の積極的な市民参加が、その後の施設利用に影響をあたえている事例を紹介しました。

その後、グループワークで話し合ったことを実現させていくために「どんな進め方が必要か」などについてフリートークで話し合いました。

- オリジナリティある施設名称にするために、町民からネーミングを募集してはどうか。
- 協働の余地、関わりしろがあると、町民一人一人が自分なりの関わり方が見えてくる。みんなでワクワク妄想するのが楽しい。
- いろんな地域、年齢層でワークショップを開催して欲しい。
- 職員の意見も大切。共有スペースは職員が町民と緩やかにつながっていける場所になるといい。
- 授業の一環で学生意見を出してもらったり、職員内アンケートをしてもいいのでは。
- さまざまなアイデアに対して、町民の需要を確認するためにもワークショップを継続してほしい。
- 10年後、20年後の未来を想像しながらワークショップを進めていきたい。他の意見も聞きながら、必要なことを順序立てて考えるのが大切。
- ワークショップの規模を拡大し、さまざまな意見を言い合う場があるといい。
- 実験的なラボとして改修しながら使うなど、いろいろな使い方ができる仕掛けがあるといい。
- 建設中でも試行的に「どんな使い方ができるか」やってみてはどうか。学校でも開催して、子どもたちにも新庁舎が身近な存在になればいい。
- 共有スペースの使い方をとおして、イベントや企画を町職員と町民が一体となって検討できる実行委員会のようなものができるといい。
- 町民や職員が自由にスペースを使ったプロジェクトをグランプリ制度(共有スペース有効活用グランプリ、など)にしてはどうか。



## 第2回ワークショップ(2025年8月26日開催)は「将来に渡って使いやすい町民スペースにするためのデザイン」を行います!

第1回ワークショップは多数の方にご参加いただきましたが、参加者アンケートでは「いろんな地域、年齢層でワークショップをやしてほしい」「ワークショップの規模を拡大してほかの人の意見も知りたい」などのご意見もいただきました。新庁舎建設では、設計期間だけでなく工事期間も前向きな情報共有の場を提供していきたいと考えています。ワークショップをとおして町民の皆さんの輪が広がり、未来の加美町を考えるきっかけになると嬉しいです。

### 【こんな人にもワークショップに参加してほしい】

- 小中高生、次世代の人たち
- 町長含めた役場職員
- 教職員、学校関係者
- 商工会、商店街の若手
- 農業従事者
- 子育て支援団体
- 地域おこし協力隊OB など

加美町新庁舎建設町民ワークショップ第2回レポート(2025年8月26日発行)

主催・発行: 東北設計計画研究所・E.I.S設備計画設計共同企業体 共催: 加美町 新庁舎整備室

新庁舎整備室HPは  
こちらから▶



## 加美町新庁舎建設 町民ワークショップ

2025 第1回 レポート

2025年7月1日開催

## 町民ワークショップとは

新庁舎建設では、昨年度に計3回の町民ワークショップを開催して、町民のみなさまのご意見を基本設計に反映させてきました。今年度は町民スペースのより具体的な使い方や運営面における課題などについて話し合います。

2025  
ワークショップ  
の計画

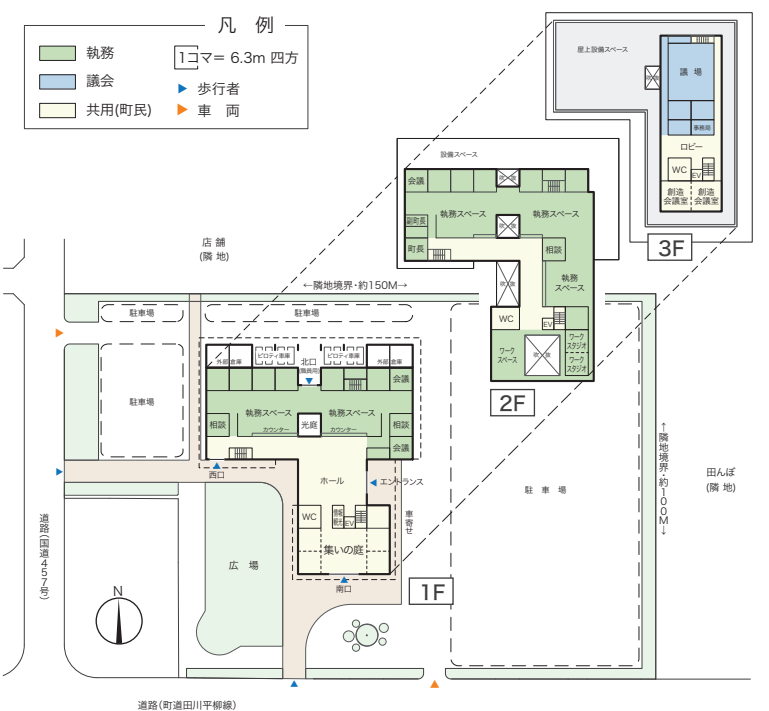
|     |       |           |
|-----|-------|-----------|
| 第1回 | 2025年 | 7月1日(火)   |
| 第2回 | 2025年 | 8月26日(火)  |
| 第3回 | 2025年 | 10月28日(火) |

## 新庁舎の計画案について

新庁舎の1階は、エントランスホールの北側に執務スペース、南側に町民スペースを計画しています。これからの人口減少社会では町民と行政の協働が必要になり、執務スペースと町民スペースが混じり合うことが大切で、行政の透明化、町民活動の活性化にもつながります。

昨年度のワークショップではこれからの加美町に求められる公共施設の機能や使い方についてご意見をお聞きし、それらを参考に町民スペースの大まかな空間構成を基本設計に反映させました。

今年度のワークショップでは、新庁舎南側に設ける町民スペースがみなさんに活用していただける空間となるよう、引き続きワークショップでご意見をおうかがいしながら、必要な建具や水回りなどの設えを検討し、町民のみなさんと一緒に活用イメージをさらに具体的にしていきます。

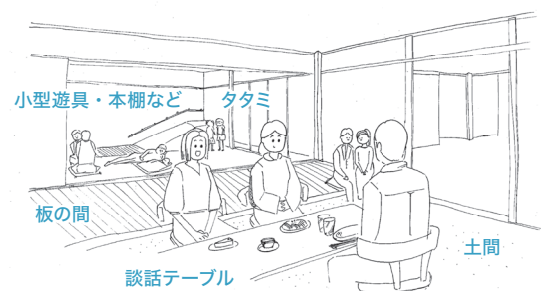


基本設計案(町民ワークショップ第3回レポートに掲載したものを再掲)

## ワークショップで出されたアイデア(抜粋)

今年度第1回ワークショップでは、他市町村の公共スペースの活用事例もご紹介しながら、町民スペースをどんな風に活用できるか、みなさんにアイデアを膨らませていただきました。いただいたアイデアをもとに描いたイメージスケッチとともにご紹介します。

### 1 子育てや町民の交流のための落ち着ける空間



- 子育てカフェ (土間スペース、車寄せ)
- 無料の子供の遊び場
- 子供交流の場 (遊び道具、ビデオ)
- おさがりを置く
- 子供の遊び場 (土日使用可能・ネット)
- 職員の休憩室
- 家に居づらい人のスペース
- 歌声喫茶店
- 麻雀ホール
- 認知症カフェ

### 2 物産販売や観光情報を提供し、町外と交流するための空間



- 水回り・カフェ・シェアキッチン
- 食堂代わり・人が集まる
- 全国協力隊のグルメでつながる場
- 楽しく集まる加美町横丁
- 野菜直売・日本酒販売
- 季節ごとの自然、イベント、食べ物等の情報を発信
- 観光大使・インバウンドの観光リソースとアクセス
- かみーごグッズの販売所

### 3 地域おこし協力隊や観光まちづくり協会などの活動スペース



- ラジオライブスペース
- オンライン観光案内ブース
- 協力隊活動拠点
- 協力隊プロデュースツアーの拠点
- 企画交流
- 冒険者ギルド (ボランティアマッチングサイト)
- キッチンだけでないイベント+準備ブース
- ※ 以下は2~3階などの利用も検討
- セミナー定期開催 (リスキリング等)
- 勉強や企業の集いスペース

### 4 それぞれの活動が溶け合いイベント会場にもなる集いの庭



- チャレンジショップ
- 規格外野菜販売
- 役場と町民の交流
- 選挙で使う
- 子どもの3地区選手権交流
- バス待合所・バスセンター
- モニターで観光情報や商店特産品紹介
- 各地区の広報誌を読めるスペース
- 学生が情報発信する場所 (学習発表など)
- 農業の協力隊員のPR
- 町民の加美町案内所

### 5 賑わいを創出する屋外スペース



- 曜日ごとマーケット (農産物など)
- 道の駅のようににぎわい
- 正面にキッチンカー
- 軽トラ市 (朝市)
- 町内外の人も出店できるスペース
- 外電源
- 洗い場

町民スペース内はいくつかのゾーンに分かれ、それぞれの活動に適した空間にすると同時に、お互いに行き来することが容易な構成にし、交流やイベント、職員の利用も含めたフレキシブルな使い方ができるように計画しています。



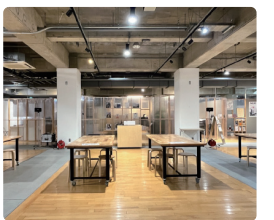
## 新しい町民スペースの事例紹介

人口減少時代では、官民一体となって多機能な公共施設を上手に使い倒し、稼働率を上げながら、文化交流の拠点をつくっていくことが求められます。

ワークショップの前半では、庁舎に限らず、さまざまな設えを持つ町民スペースが、多様な使われ方をしている、他市町村の事例を紹介しました。

### 「盛岡という星で」ベースステーション 岩手県盛岡市

盛岡市と民間企業による運営協議会が、イベント・観光案内・移住相談・学生支援・シェアオフィスなどの機能をもつ交流拠点として整備、運営しています。



### 須賀川市民交流センター tette 福島県須賀川市

図書館・子育て支援・市民活動サポートなどの機能をもつ市民交流センター。施設内にチャレンジショップの区画があります。



### 「建設までのプロセスにおいて、さまざまな市民参加が行われた事例」

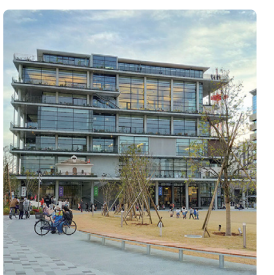
### 分じろう・十じろう 新潟県十日町市

中心市街地活性化事業で2カ所の既存ビルを、発信・交流機能の「分じろう」と、市民活動・創作機能の「十じろう」の、市民活動センターに改装した施設。市民グループが勉強会やワークショップを開催、コンセプトブックをまとめたり、運営方法を話し合った結果、建設後も積極的に利用する団体が生まれています。



### おにクル 大阪府茨木市

ホール・図書館・子育て支援センターなどが入った複合施設。建設中にも社会実験として「暫定広場」を設け、市民が実際に使いながら使用ルールなどを検討していきました。そのフィードバックは「おにクル」に引き継がれています。



撮影：寺岡知輝